

教育センター ニュース



教育支援課
マスコットキャラクター
しえん君



四日市市教育委員会 教育支援課 〒510-0085 四日市市諏訪町2-2(四日市市総合会館6階)
TEL (354)-8283 (代) FAX (359)-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

■特集 適応指導教室より 研究協議会

「思ひごと」

教育長 水越 利幸

最近、新聞、テレビ等で「教育」に関するニュースを見聞きする度に、いろいろと考えさせられることが多くあります。教育に携わってきた者として、また、今の職にある者として、四日市市の子どもたちは健やかに育まれているのか、保護者の方々は本市の教育に対してどのように思われておられるのか、また、先生方は生きがいを持って子どもたちの教育に携わっているのか等々です。

かもしれない。私たちが教育を受けた頃の価値観とは大きく変わってきています。

現在の教育界は、先生方の中に将来に夢や生きがいを持っていない、また憂鬱な気分を感じている人の割合が増えてきていると云われていますが、これは、社会情勢の急激な変化もあって、保護者からの種々の注文や厳しいご意見など、学校、教員に対する批判が多くなってきた現われなの

「地震、雷、火事、親父」(これは、この世の怖いものの順に表したものです。先の2つは自然への脅威、次は人災への戒め、最後は親への敬意を表しているものです。)「ここにある「親父」は死語となってきたように思います。子どもに対してしっかりと親の意思を伝えることや躾など家庭教育での不安の表れと思われれます。これらは、現代社会の物質的な豊かさや現実の経済状況による教育格差の問題、自由・民主主義の少し偏った考え方(際立った個人主義)からきているものとも思われます。また、私たちが行なってきた教育にも反省するところがあるのではない

かと自戒しているところです。今こそ、いや何時の時代であっても、教員が熱意と生きがいをもって、教職に励み、子どもたちと向き合う姿を示すことが大切だと考えます。そのような先生方の姿が良き大人のモデルとしての存在になると確信します。

混沌とした時代の中にあって、今後、子どもたちが将来をいかに生き抜いていくかを、「豊かな心」、「問題解決能力」の育成を中心とした教育の本質をきちんと子どもたちに学ばせるとともに、家庭や地域と一体になって歩む教師像が求められているものと思えます。



四日市市適応指導教室（ふれあい教室）より

四日市市の不登校児童生徒数は、全国平均に比べ高い数値を示しています。不登校は学年が上がるにつれ長期化・慢性化する傾向があり、不登校減少のためには未然防止の取り組みが必要です。とりわけ、最初の欠席3日間の早期対応がポイントと考えます。

昨年度からふれあい教室では不登校支援のための具体的な学校体制づくりについて研究しています。その結果、担任一人の取り組みではなく、学校全体の体制づくりが大きな成果を発揮することが見えてきました。自校の取り組み状況をチェックしてみてください。



学校づくりのためのチェックリスト10

体制	取り組みの内容例	チェック
予防体制 の つくり	① 教育相談期間等を定期的に持つなど、児童生徒と教師の人間関係づくりを進めている。	
	② Q-U等を活用し、児童生徒や学級の状態を把握した学級・学年づくりを進めている。	
	③ 不登校傾向のある児童生徒の把握に努め、早期に対応する体制づくりを進めている。	
早期対応体制 の つくり	④ 毎日の出欠席状況が把握され、教職員間でその情報が共有されている。	
	⑤ 欠席状況に応じた電話連絡・家庭訪問等の支援体制が整備されており、初期対応が学校・学年で統一されている。	
	⑥ 累計欠席を意識し、一定期間の欠席が続く場合（例えば10日程度）は、不登校支援委員会や教育相談担当者等への報告体制ができている。	
	⑦ 定期的な学年会等で、気になる児童生徒や不登校の児童生徒について話し合う機会が確保されている。	
支援体制 の つくり	⑧ 不登校支援委員会等が組織され、メンバーの役割が明確になっている。	
	⑨ 不登校支援委員会等を定期的に開催し、気になる児童生徒や不登校児童生徒の最新の情報を共有して、支援の方向性や具体的な対応を話し合っている。	
	⑩ 欠席が長期化しているケースについて、関係機関と連携した取り組みがなされている。	

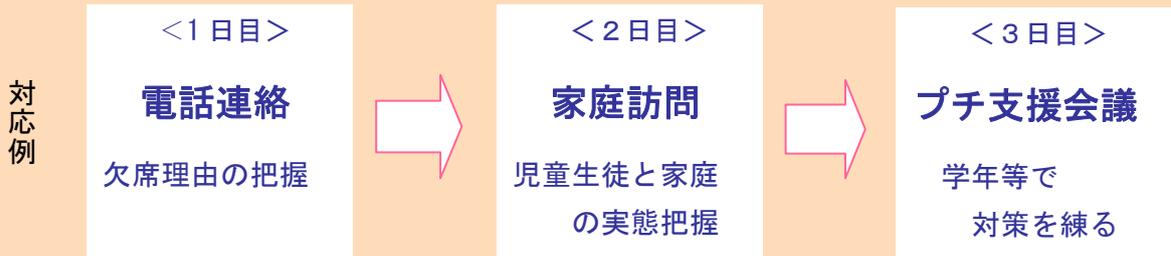
（参考：高知県教育委員会心の教育センター「不登校予防チェックリスト」2010）

あれっ？と感じたら・・・ 情報を共有してサインを見逃さない

- 🍎 保健室に行くことが多くなる
- 🍎 休みの翌日や特定日に休みが多くなる
- 🍎 遅刻や早退が多くなる
- 🍎 理由のはっきりしない欠席が増える
- 🍎 部活や委員会を休みがちになる
- 🍎 表情が暗い
- 🍎 食欲がなく、顔色が悪い
- 🍎 授業中ボーっとしている
- 🍎 家庭環境が変化した
- 🍎 友達とのトラブルが増えた



欠席をしたら・・・ 最初の3日間の対応が重要！



※ 家庭での様子を知ることは、より効果的な支援へとつながります。また早期に対応すると、保護者との信頼関係を得やすくなります。

欠席が続いたら・・・ スクールカウンセラー(SC)や相談機関へ

担任一人で対応するのではなく、学年会や不登校支援委員会等で相談しましょう。SCや専門機関へつなぐことも一つの方法です。

研究協議会は自己相互研鑽のチャンス

教師力向上のためには、自己相互研鑽の機会の確保が課題でもあります。特に若い教職員や少数の教科・職種の教職員にとっては、学びの機会の確保は大きな課題です。もちろん、それぞれの校・園内研修も十分活用しますが、他校・園の教職員と直接かわりあい、新しい知識やアイデアに出合える研究協議会は自分を高めるチャンスです。他校・園の教職員の授業や指導技術等から学んだり、積極的に授業や実践を公開したりすることで、双方向に学びを広め、自分を高めましょう！



研究協議会活動を振り返ってみましょう

- 研究協議会に積極的に参加していますか。
- 研究協議会に課題意識をもって参加していますか。
- 研修によって得た知識や指導技術等を実践していますか。

☆ こんな活動もしています

< 合同研究協議会 >

複数の研究協議会が合同で授業研究会等を行って、学びを深めています。

- 小学校と中学校の合同開催（9部会）
国語科，社会科，算数科と数学科，理科，音楽科，図工科と美術科，
体育科と保健体育科，家庭科，外国語活動と英語科
- 教科や専門の異なる協議会の合同開催（2部会）
小学校家庭科と食教育，生活科・総合的な学習と幼年教育



< 共催研修会 >

著名な講師を招聘しての講演や講習など、研究協議会と教育支援課が共催で研修会を行い、協議会会員だけでなく、広く会員以外の教職員の学びも深めています。本年度は22講座あります。



これから受講できる共催研修会

- 12月7日(水) 中学校数学科教育 講演
- 12月7日(水) 小・中学校理科教育 講演・意見交流・実技講習
- 1月6日(金) 特別支援教育 実技指導

申込受付中